

## 第18回鎌倉市観光基本計画進行管理委員会会議要旨

日時：平成25年8月23日（金）13：10～15：00

場所：鎌倉市役所第4分庁舎 821会議室

出席：古谷委員長、鷺尾委員、牧田委員、藤川委員、御法川委員、岩田委員

事務局：梅澤部長、齋藤担当課長、江口課長補佐、齋藤職員、穂田職員

傍聴者：なし

オブザーバー：観光協会 古田事業係長

- 議事の概要
1. 開会あいさつ
  2. 庶務事項
  3. 審議事項
    - (1) 鎌倉市の観光事情 [平成25年度版] について
  4. その他
  5. 閉会あいさつ

### 1. 開会あいさつ

### 2. 庶務事項

### 3. 審議事項 (1) 鎌倉市の観光事情 [平成25年度版] について

#### ア. 平成24年度実績概要

事務局から平成24年度実績概要の修正について説明を行った。

(委員) 5ページ(4)のところで「海水浴場のネーミングライツ導入に向け、検討を行いました。」と記述されているが、賛否両論あったと聞くので、賛否両論ある中で検討したという記述にした方が良い。

(事務局) 庁内的に検討する中で賛否両論あったということはない。推進するという形で進めたので、このような記述となっている。確かに募集をした後は、いろいろなご意見をいただいたが、平成24年度に検討をしている段階ではそのようなことはなかった。

(委員) 市民の意見がどうであったかも入れた方が良い。

(委員長) 実績概要の部分は、市の取り組みをまとめているものなので、市民の反応までは入れる必要はないと思う。4ページのCMSという語句には注釈を入れた方が良いのではないか。

(事務局) 2ページから3ページに注釈を設けている。

- (委員) 観光消費額を算出するアンケートには、ハイキングコースの利用者も入っているのか。
- (事務局) ハイキングコースではアンケートは取っていない。
- (委員) ハイキングコースでカウント調査をやっているのだから、その際にアンケートをとればより正確なものになると思う。
- (事務局) どのような施設をまわっているかで「天園ハイキングコース」の選択率は17%となっているし、鎌倉に来た目的のところでも「ハイキング・自然」が33.8%を占めているので、ハイキングを利用している人の統計も含んでいると理解している。平成25年度は、鎌倉駅東口・西口でアンケート調査を行った。長谷でも行う予定である。西口にはハイカーも多い。
- (委員長) 実観光客数を基に推計した観光消費額を示すのは良いが、参考までに去年の算出方法と同じ形で推計した数値も出しておくべきである。
- (委員) 実観光客数を基に推計した観光消費額は実感とは乖離した金額に感じる。これは交通費も含まれているのか。
- (事務局) 飲食費平均額が2,653円、土産代平均額が1,895円、市内交通費平均額が719円、観光施設入場料平均額が186円でこれらを足したものが5,453円という数字になっている。
- (委員長) このアンケートは観光を終えた人にとって取っているのか。
- (事務局) 昼から夕方にかけて調査を行っているのだから、観光を終えた人も、これから観光をする予定の人も混在している。
- (委員) 昨年までの算出方法で推計した観光消費額も出した方が良い。また、出来るのであれば、満足度や分かりやすさ等の統計は、これから観光をする予定の人は除いた方が良い。
- (委員) 最近外国人観光客が増えているという中で、鎌倉市は増えているのか。そういった統計は記載されているか。
- (事務局) 市としての統計はないが、33ページに観光案内所の窓口利用者数として、どの国の割合が多いのか、前年に比べどのくらい増えているかの参考となる指標は記載されている。
- (委員長) 神奈川県では統計があるのか。
- (委員) 国が空港で訪日外国人にアンケートをやり、県別の訪問率を出している。国別訪問者数に訪問率を掛けて県別には分かるが、市町村別には分からない。
- (委員) 事業者にとっては、そういう統計があると良いのかもしれない。
- (委員) 6ページの(9)で「観光協会が旅行業登録をすることに対する支援を行いました。」とあるが、旅行業に登録するにはどういう意図があるのか。実践的な活動ができるのか。
- (事務局) 旅行業に登録すると、観光ツアー等の商品を販売することができるようになる。
- (委員) 登録していないとできないことなのか。

(事務局) 観光ツアー等を企画することはもちろん誰でも出来るが、商品として販売するには、登録していないと出来ない。これによって、地域や時期的な偏りを解消する観光を提供することもできる。

(委員) 地元の観光協会が観光ツアー等を企画することは良い取り組みである。川崎の産業観光は川崎の観光協会から企画され、広く知れ渡った。やはり地元の観光協会ならば、地元ならではの観光商品が提供できる。それがいいものであれば旅行会社も飛びつくきっかけとなる。

(委員) 14ページの棒グラフの色分けが見にくいので、見やすくしていただきたい。

(事務局) WEB上ではカラーで公表しているが、白黒印刷の際はわかりやすいよう工夫して対応する。

(委員) 毎年作成しているこの鎌倉市の観光事情は、どこにどのように配り、活用されているのか。また、この場のメンバーと関係団体との意見交換の場があると良いと思うのだがどうか。

(事務局) 観光の関係団体が集まる鎌倉市観光基本計画推進協議会等の協議会での配布や、観光の統計等の資料請求に対しての配布を行っている。また、HPでもデータを公開しているので、それを閲覧している方も多数いると思われる。

(委員) 配布された関係団体が、この資料を見て常に観光の実情と今後の展望を把握する必要がある。また、私たちもこの資料を作成して終わりということではなく、これを作成したところからがスタートであると感じなければいけないと思う。

(委員長) そろそろ観光基本計画の実施計画に向けて、この委員会から提案すべき観光施策の柱があれば、挙げていく必要がある。スケジュール等はどうか。

(事務局) 次期計画のスケジュールはまだ固めていない。

(委員) 観光は生き物なので、その場でのことを話し合うのではなく、3年後くらいを見据えて考えていくべきである。

(委員長) 今後何をすべきかの意見は、進行管理状況評価報告書の方で入れていくべきだと思う。なお、観光の1年間のカレンダーを簡単なもので構わないので、作成して実績概要に入れた方がより分かりやすくなると思う。

(事務局) 来年度の作成時に取り入れるように検討する。

## イ. 進行管理状況評価報告書〔平成25年度版〕について

事務局から進行管理状況評価報告書〔平成25年度版〕について説明を行った。

(委員) 61ページに「良い成果です。」とあるが、成果に良いという意味が含まれるので「一つの成果です。」などの文章にした方が良いと思う。また、60ページ(ウ)の「集客施設の建設への取り組みに期待します。」という表現は、誰が誰に期待をしているのか。

(事務局) 進行管理委員会の評価報告書ということなので、当委員会が関係団体の動きに期待するという趣旨である。

(委員) 市の方では、新しい集客施設の建設を検討しているのか。

(事務局) 土地、建物、金銭的な寄付を受けて博物館や美術館の建設を検討している、ということ踏まえて記載している。

(委員) 私は「期待します」という書き方よりも「検討していることに対して見守りたい」という表現の方が良いのではないか。

(委員) 「集客施設の建設」という表現が引っかかるので、そこを「施設整備」に修正すれば気にならないのではないか。

(事務局) それではここは「施設整備の取り組みに期待します。」という文章に修正する。

(委員) 60ページの(エ)「JR東日本による」という部分だが、JRだけに限定せず「JR東日本などによる」とした方がよいのではないか。

(委員) どのような情報提供を行っていたのかがこの文章だとわかりにくい。

(委員) WEB上では多くの方がきめ細かい情報提供を行っている。

(委員長) 今の部分を踏まえて、文章を修正してほしい。

(事務局) 各委員の意見を踏まえて修正する。

(委員) この項目について、観光商工課のホームページが大変見やすくなっていて、その部分は評価できるので、もう少し記載しても良いと思う。

(事務局) その部分をもう少し盛り込んだ形で修正する。

(委員) 63ページ4の部分について、市内ではゴミの有料化が始まっているし、観光客のゴミの持ち帰りを呼び掛けるということを入れた方がよいのではないか。

(委員) 前回も話したが、花火大会の時もゴミの回収をしているが、本来はそれぞれ持ち帰らせるべきである。

(委員) 「観光客のゴミの持ち帰りを促すことを検討する」という文章を入れてはどうか。

(事務局) ここは、観光地としての施設の整備の項目なので、新たに項目を設けて記載しても良いか。

(委員) 今のゴミの持ち帰りのことや拝観の作法等、観光客の方には鎌倉がどういうところかを理解した上で観光をしてもらうことが必要であると感じるので、鎌倉観光の作法についてとして新たな項目を追加したらどうか。

(事務局) それでは、観光の作法についてということで項目を新たに追加する。

(委員) 観光基本計画では、目標指標を持ちながら管理をしている。個々の取組状況は書かれているが、全体として捉えたときに計画が進んでいるかどうかという進行評価は市の総合計画で記載するという事かもしれないが、今回の評価書においてもどこかに記載しなくて良いのか。

(事務局) 現在の観光基本計画では、目標指標だけは数値を掲げているが、それ以外は定性的なアクションプランとなっているため、進行評価も定性的にならざるを得ない。

(委員) 今後に向けての課題・提言として記載されている項目の順序ではストーリーがわかりにくい。項目の順序を入れ替えるだけでも当委員会が言わんとするストーリーを示せるのではないか。

- (委員) それぞれの項目を目標 1 から 3 に沿って並び替えれば良いのではないか。
- (委員長) 確かに項目の順序は疎らになっているので、変更する必要がある。もう少し順序を整理して修正してほしい。
- (事務局) 目標に沿った形で修正する。
- (委員長) ASEAN やインドからの訪日外国人が増えているが、鎌倉がどのように対応していくのかを考える必要があると思う。その辺りを含めて、次期基本計画の議論を始めるべきである。次期基本計画に向けての体制をつくっていくとの項目を入れてはどうか。
- (委員) 市として観光をどう位置づけているのかという本質的な部分が語られていないが、ここに書く必要はないのか。
- (委員長) それは大きな議論なので、この場ではなく根本から考えなければならないのではないか。
- (事務局) 観光の位置づけという部分は、観光基本計画の中で明らかにしていると認識している。
- (委員長) 他のところでは、観光という産業は稼ぎ頭となっていることが多いが、鎌倉はまた違う実情がある。今後、観光という施策の位置づけは考えていかなければならない。
- (委員) 外から見る観光地としての認識と居住地としての市民の認識にはギャップがある。そのために、他では珍しい「市民の理解を深める取組みの充実」が一番の課題となっている。この観光事情の要約版を全戸配布するなり、広報に掲載するなりして市民にもっと周知する必要があると思う。
- (委員) 観光が税収になかなか繋がっていないというのが実状である。地方交付税団体にもなり、今までは努力をしなくとも多くの観光客が訪れていたが、これからが鎌倉ブランドの正念場だと思う。鎌倉らしさや良さをアピールしつつ、且つ市民の理解を得ながら進めていくことが大事である。今回はこういうものを盛り込んでいきたい。
- (委員長) 普通は観光が税収に繋がるので、より多く誘客するために力が注がれるが、今まで鎌倉はそこまでしなくてももうまくいっていた部分がある。しかし、今後は危機感を感じ観光の捉え方を考えていかなければならない。今回はそういったところも踏まえて議論していきたい。
- (事務局) 本日の各委員の意見を踏まえ、再修正したものを送付するので、確認をお願いしたい。来週中（8月30日まで）には確定したいと考えている。

#### 4. その他

事務局から11月16日に開催予定の観光振興シンポジウムの企画案を説明した。

(委員) 観光によりデメリットを受けている人をパネリストに加えてはどうか。

(委員) 県内には観光の学部のある大学があるので、そうした学生を招いてはどうか。

(委員) 子供たちに様々な経験をさせる寺子屋の活動をしている若い人たちやYMCAに参加している人たちに鎌倉の魅力を語ってもらってはどうか。

(委員) 県内で観光の学部のある大学は、東海大学、松蔭大学、文教大学、横浜商科大学がある。外国人留学生を招くのも面白いかもしれない。

## 5. 閉会あいさつ

以上